

白門四八会

中央大学学会白門48会会報30号
(題字：故 中央大学総長 高木友之助先生)

30

発行日：令和元年11月1日

発行人：榎本真一

発行所：中央大学学会白門48会
東京都千代田区神田駿河台3-11-5

中央大学駿河台記念館学員会事務局

TEL：03-3219-6175

印刷所：㈱ディスカバリー

特集

設立20周年記念旅行「熊野古道ツアー」



左上：熊野本宮大社で九鬼宮司さんと記念撮影。
右上：新幹線車内で。右下：ホテル浦島での宴会



南紀新宮・熊野・那智・勝浦を巡る

白門四八会設立20周年を記念した南紀新宮・熊野への旅行は参加者19人で、令和元年9月8日から二泊三日で行われました。この旅行の旗振りには、四八会員の酒井総長。新宮出身の作家中上健次に興味を持つ総長の、作家の根底に流れる土俗と独特の風土に直に触れたいとの思いから実現した企画でした。

台風15号が関東地方を直撃した当日、進路から逃れるように東京を出発した四八会ツアーメンバーは、名古屋で特急に乗り継ぎ快晴の新宮駅に降り立ちました。駅頭には左居副会長の友人である嶋本氏のチャーターしたマイクロバスが出迎え、氏が三日間のガイドを買って出てくれました。

熊野三山と称される三つの大社（熊野本宮大社・熊野那智大社・熊野速玉大社）と観音霊場西国札所第一番の青岸渡寺では正式参拝をし、母校の発展と箱

熊野古道ツアー御礼

幹事長 佐藤愛子

企画当初は数名で行く予定が、年を重ねると熊野信仰への想いが強くなる為か参加者が19名に膨らみ、幹事としては手作り企画で諸々の準備や心配がありました。直前の台風直撃にもかかわらず幸先の良い旅立ちになりました。

現地では地元在住の嶋本氏（左居副会長友人）のお口添え

根駅伝での活躍、会員の健勝を祈りました。

世界遺産熊野古道を歩き、名瀑「那智の滝」を真下から眺め、補陀落渡海の船出の地では海の彼方に極楽浄土を求めた僧の覚悟と恐怖に思いを馳せました。

泊りは紀伊勝浦温泉。波が打ち寄せる露天の岩風呂で裸の付き合ひ。浴衣姿での宴会は全員のスピーチで盛り上がりました。

黒潮迫る南国の果てしない海と噛み合うように屹つ紀伊の山塊、その間を流れるどこまでも美しい熊野川の清流、平安時代からの信仰が息づく熊野三山神社、それらを繋ぐ古代の道、海の出湯、そして文学の故郷、そうした世界遺産の地を巡る旅の味わいが会員それぞれの中にしみじみと染み透っていった旅行となりました。

で、熊野三大社それぞれの宮司さんによるご祈祷や丁寧なご案内、ほかにも一般ツアーでは難しい貴重な体験が詰まった内容で大満足な行程となりました。

嶋本氏の三日にわたるご厚情に心より御礼を申し上げ、同期会旅行に初参加頂いた酒井総長、中村敏子さん、二日目に台風渦中の東京から駆けつけた川名副会長、遠方の新潟から参加の久保原さん、石坂さん、ほか参加者の皆様大変お疲れ様でした。

紀州・熊野・中上

酒井正三郎
(商学部卒)

初めての紀州・熊野路だった。三山、古道と、毎日頭からバケツの水をかぶったような汗をかきながら、三日間夢中で回った。世界遺産の旅に加えてもう一つ知りたいことがあった。この地に生まれた作家、中上健次だ。30代の頃、彼の挑戦的な、抑え切れない激情と喪失感に縁取られた繊細さの一つとなって描き出される世界が好きで、よく読んだ。その度に閉鎖性や血縁、土着という言葉が浮かんだ。以来三方山に囲まれ、海にしか出口のない小説の舞台を訪れて

みたいと思ってきた。印象は風光明媚な普通の観光地だった。しかし、中上が神々に導かれて筆を進らせたこの地が普通の土地である訳はない。僕が最初に読んだ中上の小説「枯木灘」は、潮岬から白浜辺りまでの海岸を指すのだけという。今度は車で巡ってみたいと思う。



熊野那智大社では男成宮司(中上)が一般客は入れない奥宮を案内してくれた



青岸渡寺



真下から見た那智の滝



熊野古道を歩く参加者たち



浴衣姿で乾杯の発声をする酒井総長

行ってきました熊野古道の旅。9月8〜10日の二泊三日で酒井総長を含め四八会19名での熊野本宮大社、熊野那智大社、那智の滝、熊野速玉大社をめぐる熊野フルコースの旅は左居さんと友人の嶋本さんの尽力のおかげで実現しました。それにしても熊野は遠かった！新幹線・紀勢本線を乗り継いで5時間半は簡単に行かない場所なので余計貴重な経験でしたし、いつも思うことながら、車や重機がない時代に人力で山の上まで石段を作り社殿を造った昔の人の偉大さを今回は特に感じさせられた旅となりました。

熊野フルコースの旅

山口隆司
(理工学部卒)



神倉神社にて(538段の山上に御神体)

なかなかの旅でした

中村敏子
(文学部史学科卒)

スタートは不安と少々気の重いものでした。台風15号の進路が気にかかり、一方で48年卒と言っても、ほとんど初対面の方々との旅だったからです。しかし以前から行きたかった「熊野古道」は関係者の心を込めた手作りオリジナルツアーで、普通の旅では味わえない体験ができました。深い緑の山々の向こうに見えた抜けるような青空。この空を千年前の人々は、どんな思いで見っていたのか。神々が宿る風景を日に焼き付けました。何か所もお祓いをして頂いた。少しは穢れが落ちたかな？同期の皆さま、ありがとうございました。



熊野速玉大社で神官から玉串を受け取る酒井総長

中上健次の 軌跡を訪ねる

左居康雄
(法学部卒)

『芥川賞作家・中上健次を育んだ熊野とは、どんな所か訪ねてみたい』酒井総長ご提案によるもう一つの旅のテーマである。

中上は熊野を舞台に、自身の複雑な出自を『路地』という虚構空間に錯綜する地縁、血縁関係の中で生きる人間たちの崇高な生と死を大きなスケールで描き続けた。

佐藤春夫記念館館長の辻本雄一先生のご案内で新宮市立図書館に設けられた『中上健次資料収集室』に行き、新宮で育った作家の生い立ちを伺った。中上は、その風貌と挑戦的な文体、行動で荒々しい無頼派のイメージと一般に評されているが、真



中上健次の墓にて(右から酒井総長、左居副会長、案内してくれた嶋本氏)

実はとても優しく繊細な少年であったと聞く。『あの姿は東京で作家として生きて行く為の虚構だった』と語る辻本先生のお話は、彼をよく知る地元の人ならではの逸話だけに説得力がある。

酒井総長も作家を育んだ土地の背景について熱心に質問を重ねられ、知りたかった多くの成果を得られたご様子であった。作家の墓参も叶えられた。墓碑銘には自身が揮毫した『中上健次』の文字だけが刻まれている。今も彼を慕う人々が全国から此処を訪れると言う。忘れえぬ有意な旅であった。



佐藤春夫記念館



ホテル浦島へは亀さんが迎えに



補陀洛山寺

令和元年 『白門48会』創立20周年記念事業 世界遺産・熊野三山・古道を訪ねる旅

◆ とき：令和元年(2019年)9月8日(日)～10日(火) (2泊3日)

行き	東京発	品川	新横浜	名古屋発	名古屋発	新宮発
	8:10	8:17	8:29	9:47	10:01	13:37

初日	熊野本宮大社	大斎原	湯の峰温泉	(夕食) 徳川	熊野詣
	15:00～16:30		16:30～17:30	18:30～20:00	ホテルニューハリス



2日目	大門坂(熊野古道)～影磐大社～青岸寺～那智の滝	神陀洛山寺	太地町・くじらの博物館	日本一長い川	ホテル 浦島
	8:30～13:00	13:30～14:00	14:20～16:00	16:20～16:40	18:00頃～懇親会



3日目	浮き島の森	神倉神社	熊野速玉大社	神宝館	熊野三山記念館	熊野 皇六(うなせ)	花の窟	新宮駅
	9:00～9:20	9:30～10:20	10:40～12:00	12:00～12:40				17:00集合



帰り	新宮発	名古屋発	名古屋発	新横浜	品川	東京発
	17:31	20:49	20:57	22:14	22:26	22:33

食事を問わず『熊野詣』と言われるほどに民衆の篤い信仰を集めた熊野は古より聖地の地と崇められている聖地です。本日の熊野をご案内します。どうぞお祈り！

熊野古道ツアー

三森孝悦
(理工学部卒)

心配された台風も避けられ、好天に恵まれた今回の「熊野古道ツアー」はとても貴重な体験内容でした。私も添乗業務を行っていますが、旅行会社のツアーや個人では、経験できない内容でした。

左居さんと地元の嶋本さんの手配、酒井さんの総長としての参加もあり、世界遺産「熊野本

宮大社、熊野那智大社、熊野速玉大社」の三社巡りでは、共に拝殿に上がったの折袴は貴重な体験で感動致しました。やはり世界遺産の「補陀洛山寺」ではまさかの千手観音の開帳など普通ではあり得ない体験を、榎本会長並びに四八会参加メンバーとともに出来た事は生涯に残る思い出になりました。

これ以外にも、豪快に流れ落ちる「那智大滝」など世界遺産の多くを見学し、紀伊勝浦温泉で癒されたことは、メンバー共々万感の気分浸れた三日間でした。

第21回総会・懇親会を開催



新年度役員を紹介



総会・懇親会出席者

総会では、榎本会長の挨拶に続き議長として菊田和行氏を選出、総会議案に沿って順に議事を進めていきました。第一号議案「2018年度事業報告並びに決算について」（資料1参照）、第二号議案「2019年度事業



メインテーブルを囲むご来賓の皆様

白門四八会第21回通常総会は、令和元年6月8日午後3時より新宿小田急ホテルセンチュリーサザンタワー21階遠望ルームで行われました。
総会・懇親会・二次会を合わせた出席者は、会員43名、来賓5名の48名でした。来賓は、四八会員で中央大学総長の酒井正三郎先生、学生会から柳田晋次副会長、および白門四五会支部長の相場有二学員会副会長、さらに年次支部協議会代表幹事の半澤勉白門四六会支部長と四九年白門会の原伸正幹事長といたった方々でした。

懇親会と同じ会場で行われ、校歌斉唱で幕を開けました。会長挨拶に続き新役員が登壇し新体制が承認された後、ご来賓の方々が紹介されました。来賓のなかから学校法人中央大学を代表して酒井正三郎総長、中央大学学員会を代表して柳田晋次副会長よりご祝辞をいただきました。乾杯のご発声は、学員会副会長で白門四五会の相場有二支部長の軽妙なご挨拶とともに行われ、賑やかな宴が始まりました。



懇談する出席者たち

計画（案）について、第三号議案「2019年度予算（案）について」、第四号議案「役員の変更について」（資料2参照）と審議し、いずれも原案のとおり可決されました。なかでも第二号議案では事業計画案として20周年記念「熊野古道ツアー」の催行が提案され、関心を集めました。



3次会に集まったメンバー

懇親会はいつもとどおりの和やかな懇談で、久しぶりに参加した島田会員たちのスピーチも交えて、会員同士の親睦が深まりました。
恒例のお楽しみ抽選会も盛り上がり、商品券を獲得した会員は満面の笑顔で記念撮影に収まっていました。
鈴木会員が呂律のあやしい音頭取りで神田節を披露した後、応援歌を高らかに歌い、国領監事によるエール、川名副会長の閉会挨拶を経て最後はみんなそろっての記念撮影で終了しました。
二次会と同じビル内のイタリアンレストラン。二次会だけの出席者も含めて33名が参加する大宴会となりました。
さらに、二次会がはねた後はゴールデン街に繰り出し三次会へ。10人以上が参加して夜の新宿で杯を傾けました。（島崎修）

第20回総会で白門四八会会長に就任して二年目を迎えました。昨年の記念総会は、山口前会長がお膳立てしてくださったので、私は新会長としてそれに乗るだけでよかったのですが、今年はずいぶん。第21回総会を代表として主催しなければなりません。見えない責任が私の肩にのしかかってきました。それでも、幹事の方たちに助けていただきながら、滞りなく開催することができ、ホッとしています。

息抜きする間もなく、9月には20周年記念旅行「熊野古道ツアー」を実施しました。これについても左居副会長や佐藤幹事長、三森副幹事長が骨を折ってください、大成功裡に終えることができました。ますます活発化する四八会の舵取りをしていくのは大きな重圧との戦いですが、四八会会長の任期は二年と決められていますので、あと一年頑張ろうと決意を新たにしています。

二年目の決意

白門四八会会長
榎本真一
(文学部卒)



【今後の予定】

- 12月1日 白門レガッタ (48会から2艇出場予定：漕艇同好会)
- 12月25日 フグとカニを食する会 (グルメ同好会)
- 1月2・3日 箱根駅伝本戦応援と懇親会 (駅伝応援同好会)
- 1月下旬 白門48会新年会 (日時・場所未定)
- 2月上旬 学生ゼミ・プレゼンテーション大会 (日時・場所未定：年次支部協議会)
- 2月下旬 ラグビー部支援交流会 (学生スポーツ応援同好会)
- 3月下旬 花見会 (日時・場所未定)
- 6月上旬 第22回白門48会総会・懇親会

◇さくらの女王来日計画に協賛

このほかに、大学では「全米さくらの女王中大招聘計画」が進んでおり、2020年6月頃に「さくらの女王」が来日する予定です。白門48会では、この計画に賛同し実現に向けて協力することを幹事会で決定しています。どんな行事になるか未定ですが、多摩校舎への参集をご案内することになるでしょう。逐次ご連絡いたしますが、ご協力をお願いいたします。

◇来年は北海道・大沼国定公園へ古希旅行

第22回総会・懇親会の後日、今年熊野を訪ねたような大旅行を再び行う予定です。会員の大部分が古希を迎えることを踏まえて、古希を自ら祝う行事といたします。行く先は北海道道南地区、大沼国定公園です。函館や五稜郭なども当然旅程に含まれるでしょう。早めにアナウンスいたしますが、多くの方のご参加をお待ちしています。

【資料1】 白門48会 2018年度決算

2018年度 白門48会決算

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
会費	312,000	役員報酬	7,348,524
130名 年々500円	650,000	会報制作費(2冊)	297,289
2名	10,000	地方支部経理研修	11,284
		4,480円×運送代	19,200
臨時会費	941,200	大会制作費(経費)	68,421
総合懇親会(54名×)	242,000	ユニーク賞状費	18,381
総合二大出陣(45名×)	132,000	年会費	715,242
新春会(30名×)	150,000	2018年記念事業費	
新年会(1名×)	50,000	総合一大会(懇親二大会)	762,183
		総合懇親(賀正行事)	94,141
雑費・寄付金	144,800	2018年記念大会(100名×)	200,254
雑費	138,000	熊野旅行費(旅行費)	62,302
寄付金	6,800	2018年記念大会経費	748,499
会費	32,000	印刷費	42,000
		年次支部協議会	47,284
		学生懇親会	40,000
学費支部補助金	212,800		
文学部支部補助金(10名×)	7,000,000	奨励費	
2018年支部補助金	100,000	賞状費	0
その他(1名×)	12,800	広告宣伝費	11,000
雑収入	100,000		
MC費(雑収入)	1,000,000	雑費	1,184,919
		文具・消耗品	13,502
		通信費	89,184
		電気代	3,782
		雑収入	11,228
雑収入	1,188,000	雑年度支出 計	7,872,902
雑収入	7,988,494	雑年度繰越金	1,178,254
雑収入	2,762,584	計	3,762,984

科目	金額
雑収入	71,115
雑収入	642,321
雑収入	
雑収入	3,178,548

2019年7月31日

白門48会会長 榎本 真一
 会計監査人 小野 謙
 2019年5月25日
 会計監査 東海林 正
 会計監査 国領 義男

【資料2】 白門48会 2019年度役員

- 会 長 榎本 真一(文学部)
- 副 会 長 左居 康雄(法学部)
- 佐藤 豊(経済学部)
- 水野 勝敏(商学部：会計部会兼務) 新任
- 島崎 修(理工学部)
- 川名まゆみ(文学部)
- 幹 事 長 佐藤 愛子(文学部)
- 副幹事長 三森 孝悦(理工学部：事業部会)
- 長谷川 孝雄(理工学部：事務局)
- 江川 修司(商学部：会計部会)
- 小林 裕(文学部：広報部会)
- 坂本 賢一(経済学部：ホームページ担当)
- 常任幹事 山口 隆司(理工学部) 小田 真一(商学部)
- 菊田 和行(法学部) 佐山 洋一(経済学部)
- 宮崎 謙一(法学部) 藤野美知子(文学部)
- 山下 三雄(理工学部) 井沢 和夫(商学部)
- 地方支部 黒羽 一記(文学部：関西支部長)
- 三澤 壯義(商学部：東北支部長)
- 橋本 博(経済学部：九州支部長)
- 会計監査 東海林 正(法学部)
- 国領 義男(経済学部)

第46回全日本大学選手権

〈中大エイト完全優勝〉

ボート

第46回全日本選手権で中大エイトが完全優勝。予選、準決勝、



手前から2艇目が中央、一番奥2位仙台大

決勝を通じて500メートルごとのラップともに、他クルーの追従を許さず圧巻の勝利でした。

大会は9月5日から8日までの4日間。予選、敗者復活、準決勝と進み8日が決勝です。レース結果は、日本ボート協会のホームページでその日のうちに確認できるので、今年こそはと決勝に期待していました。

決勝は台風接近の影響か、スタートが2時間ほど繰り上がりましたが、知ったのが当日の昼過ぎ。四八会漕艇同好会を代表して大急ぎでボートコースに駆け



レース後に勝利の雄叫びを挙げる中大クルー

け付け、辿り着いたのが決勝のゴール直前。それでも、中大エイトが1位でゴールラインを通過するのを確認でき、クルーの勝利の雄叫びが印象的でした。感動ものですよ！（長谷川孝雄）

MGC出場の堀尾選手を応援

駅伝

9月15日、東京オリンピックマラソン選手選考のためのMGC（マラソン・グランド・チャンピオンシップ）が開催された。本年卒業した堀尾謙介君（現トヨタ自動車）応援のため9名の四八会会員が神田駿河台下、神保町で声援を送った。



力走する堀尾選手



2位集団の中央で走る堀尾選手

結果は14位の設楽悠太選手に次ぐ15位。最少出場でもあり、捲土重来を期待したい。（新倉利明）

秋の東都大学リーグ優勝へ！

野球

まだ暑さ厳しい9月初旬に開幕した東都大学野球秋季リーグ戦も中盤に差し掛かったが、我が中大は亜大・駒大を撃破し開幕4連勝と首位をキープ。

そして迎えた10月8日からは、やはり好調の2位國學院との頂上対決となった。ここで勝点を挙げれば、実に平成16年秋以来15年ぶり25度目の優勝も夢でなくなる大一番である。

第1戦は、大学日本代表の4

番牧（3年松本第二）の3点本塁打等で、9-7の乱打戦を制し中大が先勝する。

第2戦は國學院のドラフト候補投手小玉に打線が沈黙、0-3と完封負け。

1勝1敗で迎えた第3戦は、息詰まる投手戦となった。中大は1点を先制するも、その後再三の得点機を逃しイヤな展開となる。案の定、6回表には一死1塁3塁と同点にされるピンチを

招く。しかし、國學院4番の篠飛を新人の右翼手森下（1年東海大相模）が本塁へ好返球、タッチアップした走者を刺し、併殺でピンチを脱出。9回表にも一死1塁2塁で、逆転打と見た國學院選手たちがベンチ前に飛び出すほどの大飛球を左中間に打たれるが、中堅手五十幡（3年佐野日大）が自慢の快足をフル回転し見事キャッチ。最後は捕邪飛で1-0の勝利。勝点を3と伸ばし優勝へ一歩抜け出した。植田（2年興国）の後藤（2年城西大城西）の好投と守備で勝ち取った中大らしい勝利だった。

前回優勝は、現在巨人でベテランと言われる亀井選手が主将の時で、もうあれから15年。会報発行時には、既に結果が出て

中大が優勝しているはずだが（写真参照）、それが長く長く本当に長く待った優勝であること祝いつつ筆を置く。（金子健治）



立正大から勝点を奪い優勝を喜ぶ中大ナイン



優勝の表彰式にのぞむ

暑気払いとカラオケ二次会

グルメ

今夏も異常気象の影響で猛暑が続く、恒例の暑気払いを7月22日に銀座ライオン新宿センタービル店で実施しました。22名の参加者が集まり、まずは定例幹事会で総会報告、9月初めの熊野古道ツアー、MGC(東京オリンピックマラソン選考会)応援の説明の後、榎本会長、酒井総長のご挨拶を頂き、乾杯後は『待ってました』とばかりに乾いた喉に生ビールを流し込み、料理を食し席を移動しながら各テーブルで歓談に大きな花を咲かせる面々は、まだまだ暑さにも負けず元気いっぱいでした。

終了後のカラオケ二次会では当会員で3年前に歌手デビュー



暑気払い会場前

俳句コーナー

紫陽花や水面に映える鮮やかさ

秋場所は若き力士の夢舞台

ひと日毎松の緑も濃くなりぬ

草ぬきの頬と青葉に初夏の風

坂本賢一(経済学部卒・さいたま市在住)

上原秋雄(文学部卒・佐久市在住)

三橋 隆(文学部卒・成田市在住)

三橋 隆たかし

※俳句同好会を結成しました。皆さんもご投稿ください。

第28回中央大学ホームカミングデー



学員懇親会「中央大学の夕べ」でのステージ

第28回ホームカミングデーが9月29日、都心会場(後楽園キャンパス&東京ドームホテル等)で開催されました。前日の理工



目玉企画のひとつ「アスリート紹介」

学部創立70周年記念とあわせて初企画の都心会場では、広大な多摩キャンパスと異なり、狭い校内や不慣れな案内などで戸惑う方々も多々見られました。遠方からのOBには利便性もよく参加しやすいとの声も。ほかの方々も理工学部の研究室実験

なども初めて体験出来る貴重な機会であったようです。理工学部出身の会員達の一部は前日のイベントに参加され旧交を温めたそうです。

ビッグ座談会、アスリート紹介なども好評で、夕方からの東京ドームホテルでの「中央大学の夕べ」には、小池百合子東京都知事など来賓挨拶、親子表彰、スイング部、応援団による演奏演舞の後、特賞抽選会では卒業50周年、25周年の招待者1000名も加わり「ONE CHUO」の名にふさわしい大盛況の会となりました。四八会員は近隣の新店ソバキチで13名が集合し余韻に浸りながら、心地良い酔いで懇親を深め解散しました。(佐藤愛子)

《会費納入のお願い》

白門48会は昨年創立20周年を迎え、記念総会をはじめ、記念誌の発行や旅行等の記念行事を行ってまいりました。

また年間を通して全会員を対象にした同好会企画や懇親会行事を柱に、活発な活動を展開しております。

その活動助成やご案内、会報やホームページでのお知らせなど会の運営は会員の皆様の会費によって賄われています。

会費の納入方法は、逐年ごとの納付となっておりますため、時期を逃しますと年会費納入が滞ってしまいます。そのような場合でも、途中納入が可能ですので、思い立った時に入金してくださいようお願いいたします。

厳しい経済状況の折、まことに恐縮ではございますが、ご賢察のうえ格段のご配慮をいただきたく、よろしく願い申し上げます。



幹事長 佐藤 愛子

〒192-0351 東京都八王子市東中野228-1101

F A X : 042-679-3329

携帯電話 : 090-4098-7379

Eメール : ai-mimo.310.dm@amber.plala.or.jp

《 祝 第21回総会協賛広告 》

白門四八会常任幹事
井沢 和夫
商学部経営学科卒

白門四八会幹事
石坂 隆
商学部経営学科卒

白門四八会幹事
岩崎 正博
経済学部経済学科卒

白門四八会副幹事長
江川 修司
商学部商業貿易学科卒

白門四八会会長
榎本 真一
文学部哲学科卒

白門四八会幹事
大橋 恒夫
経済学部経済学科卒

未来コンサルタント合同会社
代表社員
小田 眞一
商学部会計学科卒

大沼観光大使
川瀬 俊吉
理工学部精密機械工学科卒

白門四八会副会長
川名まゆみ
文学部史学科卒

白門四八会常任幹事
菊田 和行
法学部政治学科卒

（有）油屋久助商店
代表取締役社長
久保 原昇
商学部経営学科卒

白門四八会関西支部長
黒羽 一記
文学部哲学科卒

白門四八会会計監査
国領 義男
経済学部国際経済学科卒

白門四八会幹事
小林 秀男
文学部哲学科卒

白門四八会副幹事長
小林 裕ゆたか
文学部文学科卒

中央大学総長
酒井 正三郎
商学部商業貿易学科卒

白門四八会副幹事長
フライングチャールランナー
坂本 賢一
経済学部国際経済学科卒

白門四八会副会長
左居 康雄
法学部政治学科卒

白門四八会幹事長
佐藤 愛子
文学部文学科卒

白門四八会副会長
佐藤 豊
経済学部産業経済学科卒

白門四八会常任幹事
佐山 洋一
経済学部国際経済学科卒

白門四八会副会長
島崎 修
理工学部電気学科卒

白門四八会幹事
島田 正文
商学部商業貿易学科卒

（有）サポートコーポレーション
アドバイザー
東海 林正
法学部法律学科卒

白門四八会幹事
鈴木 実
理工学部管理工学科卒

白門四八会幹事
滝田 健司
経済学部経済学科卒

税理士
苗村 泰徳
商学部会計学科卒

（株）ニイクラコーポレーション
代表取締役
新倉 利明
経済学部産業経済学科卒

白門四八会副幹事長
長谷川 孝雄
理工学部工業化学科卒

白門四八会幹事
福岡 悟
理工学部工業化学科卒

白門四八会常任幹事
藤野 美知子
文学部哲学科卒

白門四八会副会長
水野 勝敏
商学部商業貿易学科卒

白門四八会幹事
三橋 隆
文学部文学科卒

白門四八会常任幹事
宮崎 謙一
法学部法律学科卒

白門四八会常任幹事
山口 隆司
理工学部管理工学科卒